

プレスリリース

アーティスト: **CLOVIS NICOLAS** クロビス ニコラス

アルバムタイトル: ***Freedom Suite Ensuite*** フリーダムスイートアンスイート

2002年にフランスからNYに活動拠点を移したベーシスト、クロビスニコラスはそれ以降、NYのJAZZシーンにおいて重要な役割を担って来たといえるだろう。数々の有名ミュージシャン、バティストルテイニヨン、アンドレチカレツリ、ベルモンド、ミッシェルルグラン等のファーストコールベーシストとしてヨーロッパで成功を収めたのち、それだけでは飽き足らず、NYに飛び、名門ジュリアードスクールで研鑽を重ね、生き馬の眼を抜くごとくのNYJAZZの世界でじわじわと頭角をあらわし、結果、今日、国際的なビッグミュージシャン、ピーターバーンスタイン、ジェーンモナハイト、フランクウエス、ジョーマグナレリ、ウォルトウェイコフ、サモラピンダヒューズらと共演、レコーディングをこなしながらマンハッタン中をレギュラーギグのために駆け回る。

クロビスのニューアルバム、***Freedom Suite Ensuite*** のアイデアは彼が日常的にこなすレギュラーギグの一つから生まれた。コード楽器を入れない、2ホーンのカルテット。プレイを重ねるうちに彼はそこにベースの新しい可能性と方向性を見つけ出す。この構成の中で、ベースは曲の進行に多大な影響力を持つ事ができる。格段に広がった表現の域と場、そしてソロパートを、彼は自由闊達に動きまわることができることに気付く。

過去のこれに似た構成のバンドの録音、ジョンコルトレーンの*Avant Garde* やロンカーターの*Etudes*もクロビスにインスピレーションを与えた。

これらのアルバムが、クロビスがバンドメンバーを選ぶ際、いつも彼の頭の中にあつたことは間違いない。

クロビスのジュリアード時代の恩師の一人でもある名ドラマー、ケニーワシントンのスウィングとサウンドがアルバム中で炸裂する。

クロビスの長年の友人であり、共演者であるテナーサクスのグラントスチュアートは卓越したテクニックでハーモニー、メロディラインをささえる。ソロパートでは彼の底知れぬ実力がうかがえる。

トランペットは曲により2名に分かれる。一人は内省的でじっくりと聞かせるブランドンリー。ウイントンマルサリスの秘蔵っ子である。

そしてもう一人のトランペッター、ブルースハリスは火を噴くようなソウルフルなプレイをスタンダードナンバーやブルースで展開する。

クロビスがこのアルバムの中で試みたいいくつかの挑戦の一つ。それは伝説的曲であるソニーロリンズの*Freedom Suite*である。サクソフォン、ベース、ドラムで奏でられるこの曲にクロビスはあえてトランペットを加え、新たな命を吹き込んだ。この、2つの*Interlude*（英：『幕間』）によって3つのパートにされた*Suite*（英：『組曲』）はクロビスの斬新なアレンジによって聴く者に今までは知る事を得なかった新しい側面を見せてくれる。

アルバム、*Freedom Suite Ensuite* は、（*Ensuite* 仏：『その後』）その名のなす通り（『組曲とその後』）これに続くオリジナルとスタンダード曲で彩られる。

気取らない下世話な酒場（こういったバーをアメリカでは親しみをこめてダイブバーと呼ぶ）の夕方のリラックスマードあふれる、**The 5:30PM Dive Bar Rendezvous**, 友人でもあるサクソプレイヤーのグラントスチュアートに捧げた、少しばかりとんがったようなブルース、**Grant S.** はハーモニーの中での微妙な変化を聴かせる一曲。一方、**Nicholas and Nicolas** はピアニスト、ハービーニコラスに捧げた曲。クロビスは1時間でメロディラインを完成したにもかかわらず、納得できるコードを見つけることに一ヶ月を要した作品。

弾むような **You or Me** は アービングバーリンのスタンダード *The Best Things for You is Me* のハーモニー構造を下敷きに作られた。**Dark and Stormy** は『死刑台のエレベーター』のルイマルや『恐怖の報酬』のクルーズーといったフィルムノワールをイメージしてつくられた、暗く甘いワルツである。そしてケイスイフトのスタンダード、**Fine and Dandy** のダイナミックなアレンジでは プレイヤー各々の圧巻ソロパートとともに本アルバム一番のエネルギッシュな盛り上がりを見せる。

続く、**Speak a Gentle Word** は 情感あふれるサクソ、グラントスチュアートとトランペット、ブランドンリーのソロが美しいラテンジャズのオリジナル。そして最後はクロビスの珠玉のソロ、リチャードロジャースの**Little Girl Blue**によって締めくくられる。

ジャズミュージックは何かを付け加える事、または取り去る事似よって進化を続けて来た。クロビスはピアノとギターを取りのぞく事によって、正当なジャズのハーモニーを失う事なく、ベースラインと自らの可能性、表現の域を新しく見出した。

クロビスニコラスは、この発見に魅了され、閃き、創造し、
これらのすべてを凝縮して、このアルバム *Freedom Suite Ensuite* に詰め込み、
この世界に捧げ、知らせめたのである。

For More Info: Bret Sjerven / bret@sunnysiderecords.com

ページ 2 / 2